



2020年12月7日

「MAZDA MX-30」が「2020-2021 日本カー・オブ・ザ・イヤー デザイン・カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞

日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会が主催する「2020-2021 日本カー・オブ・ザ・イヤー」の最終選考結果が本日発表され、「MAZDA MX-30」が、「デザイン・カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞しました。同賞は今年「日本カー・オブ・ザ・イヤー」に新設された部門賞です。



MAZDA MX-30 100周年記念車

「MX-30」のデザインは、「Human Modern(ヒューマン モダン)」をコンセプトに、魂動(こどう)デザインの新たな表現手法の開拓にチャレンジしました。エクステリアは、塊そのものが持つ美しさを際立たせるため、シンプルな立体構成に徹したうえで親しみやすい表情とし、キャビンデザインはフリースタイルドアによる身軽さを表現。インテリアは、フローティングさせたコンソールや、サステナビリティをテーマとした個性的な素材使いなどにより、「開放感に包まれる」空間としました。また、マツダ創立100周年の節目に登場するクルマの象徴として、ヘリテージ素材でもあるコルクをインテリアに採用し、柔らかな居心地の良さを表現しています。

デザイン・ブランドスタイル担当の前田 育男(まえだ いくお)常務執行役員は、「今回の受賞は、マツダのデザインが高く評価された証として大変誇りに思うとともに、応援していただいた皆さまに心から感謝を申し上げます。2010年に『クルマに命を与える』という哲学のもと魂動デザインをスタートさせました。今年10年の節目を迎え、さらなる深化を目指し新たな方向性を提案したのがMX-30です。今後も日本ブランドとしての誇りを高く持ち、マツダのデザインをより良いものにしていく決意です。」と述べました。

マツダは今後も、クルマ本来の魅力である「走る歓び」にあふれたカーライフを通じて、お客さまの人生をより豊かにし、お客さまとの間に特別な絆を持ったブランドになることを目指してまいります。

以上

*センターピラーレスのセンターオープン式ドア構造。